

福井大学学術交流協定校への派遣留学（交換留学） 月例報告書（12月）

留学先：The University of Findlay

氏名：本田 涼哉

12月のフィンドレーは、日付が年末に近づくにつれ、寒さが本格的になってきました。気温が昼になってもマイナス十数度で、厚めの防寒着を数枚重ねてきてはかなり寒いです。キャンパスも雪に染まり始めており、寒そうに背中を丸めて足早に歩く学生が多いです。心なしか、冬に近づくにつれ、屋外で見かける人の数が少なくなった気がします。この寒さに負けず、留学生活を送っていきたくと思います。それでは、今月の報告に入ります。

◎Final Exam Week

12月に入ってからすぐ、Final exam week が始まりました。試験が近づくにつれ、学生用の共有スペースなどは学生であふれかえり、夜遅くまで勉強する学生が非常に多かった時期でした。試験期間でなくとも勉強しなければならないのがアメリカの大学の特徴と言えますが、試験期間中は、普段よりもキャンパスの雰囲気も引き締まったように感じました。

私自身も、期末試験が終わるまでは、夜遅くまで勉強する日々が続きました。テストはスペイン語だけで、1つで済みましたが、他の授業の評価はテストではなくレポートだったので、なかなかレポートが消化できず、かなり苦戦しました。特に、教育の授業のレポートのテーマは、「教師として、どんな教室を作っていくか」というものであり、教室のイラストや1クラスあたりの人数、教材や教授法といったことまで、レポートに考えを記すという課題を課せられました。教師を目指す身としてそのような考えを持つことは非常に大切であるため、積極的に課題に取り組みました。自分のアイデアをできるだけ詳しく述べる必要があったので、10枚以上書くことになってしまいました。結果、期限までに提出できたので良かったです。

【何を学んだのかを考える】

そのほかの授業では、振り返りのレポートがほとんどでした。特に、学外での活動を含む授業では、レポートの内容は活動の振り返りを含むものが多い気がします。理由としては、アメリカの大学、少なくともフィンドレー大学では、「学習成果」に焦点を当てているからだと思います。「何をその授業で得たのか、何ができるようになったのか、何を学んだのか」という疑問に答えることが出来るように、授業内でプログラムが組まれ、それに比例して当然勉強量も増えていくのではないかと思います。レポートだけでなく、シラバスも学習目標が最初に明記されており、さらに、どんなスキルをその授業で得ることができるのかといったことまで、記されています。そのため、シラバスは通常6ページまでに及びます。私の経験上、6ページもあるシラバスを日本にいる間に見たことがないので、日本とアメリカの大学の一つの「違い」（「学習成果」に非常に重点を置くということ）になるのではないのでしょうか。

フィンドレー大学での生活が慣れてきたこともあり、アメリカで生活できるというありがたみがどうしても薄れてしまいがちですが、自分は何を得たいのか、何を学んでいきたいのかということを中心に留め、春学期も頑張っていきたいと思います。

◎Oiler Opener

先月の報告書でも述べましたように、現在、フィンドレー大学の陸上部に所属しており、練習に日々励んでいます。少々時間がさかのぼりますが、Final exam week 直前の土曜日に、Oiler Opener というインドアトラックのシーズンオープン戦がありました。フィンドレー大学の陸上部に入って初めての大会でした。日本でたくさん試合は経験してきたはずですが、久々の大会ということもあり、とても緊張しました。男子1600mに出場し、結果5位という成績を修めることが出来ました。非常に小さな大会だったので、私自身満足はしていませんが、それでも、チームメイトからは、“You did very good job!”, “You were so bad!”とい



練習の様子

った声もかけてくれ、絆が深まったように思います。陸上部は人数が多く、種目ごとに練習内容が違うため、普段なかなか話すことができない人が多いですが、この大会をきっかけに自分のことを知ってもらえたように思えます。

春学期からは試合がどんどん入ってくるので、チームメイトとの交流も深めながら頑張っていきたいと思います。

◎Winter Break Trip

期末試験も終わり、3週間の冬休みに入ったということで、冬休みを利用して旅行に行ってきました。ニューヨークでは一人で、カリフォルニア州のオークランド、サンフランシスコ、ロサンゼルス、ネバダ州のラスベガスといった主要都市では友人と一緒に観光してきました。様々な場所を訪れたわけですが、特に印象に残ったこと、考えさせられたことについて述べていきたいと思います。

ニューヨークを一人で観光してきました。秋休みに一人旅をしていたということもあり、一人旅は慣れていましたが、秋休みのニューヨークでの一人旅とは一味違ったものになりました。

合計4日ほど滞在しましたが、後半の2日間は、ニューヨークで出会った人たちと観光を楽しみました。カウチサーフィンというウェブサイトを利用して、ニューヨークに旅に来ている他の人たちと出会いました。一人旅をしている者同士で集まって一緒に食事などを楽しみました。思っていた以上に、様々な国の出身者同士で集まることになりました。イタリア、韓国、日本、シンガポールといった多様性豊かな時間をともに過ごすことが出来ました。驚いたのは、大半の旅行者がイタリア人でしたが、彼らの多くが、英語がそれほど得意ではなく、英語の勉強中だったということです。フィンドレー大学にヨーロッパの国々から来ている学生は英語が非常に堪能で、言語が似ているため、英語には私が経験したほどの苦労はしないと考えていました。しかし、そうではなく、たとえ言語が似通っていても、自分と同じように英語の勉強に力を入れている人もたくさんいることに気づいたのです。観光中はもちろん英語でコミュニケーションを取っていましたが、改めて、英語が世界共通の言葉であることを再認識しました。加えて、英語を外国語として勉強しているという同じバックグラウンドを持っていたこともあって、親近感もわきました。私にとって意外な場面で他国の出身者と自分の共通点を見つけることが出来ました。

また、別の日には、同じウェブサイトを利用して、メキシコの方と観光をすることになりました。スペイン語を勉強している私にとって、とても良い練習になりましたし、観光しながら日本についても教えることが出来ました。大学で勉強しているスペイン語が思わぬところで役に立ちました。

その方と一緒に9.11事件の博物館に行ってきました。私が小学生だったときに起きた9.11事件は、当時まるで映画を観ているようでした。事件があった場所に行ってみるとそれが本当に起こってしまったことであることを改めて実感しました。博物館では、本物の瓦礫が展示されており、事件の生々しさを感じる事が出来ました。その事件について当時テレビで中継映像を見て衝撃を受けたことをメキシコの方に話すと、「自分も驚いたよ。」と言って、いかに世界中に衝撃を与えた事件であったかを理解することが出来ました。

その後、タイムズスクエアや自由の女神、セントラルパークなどを見て回り、充実した時間をニューヨークで過ごすことが出来ました。



タイムズスクエア



カウチサーフィンで出会った人々

9.11 事件当時の瓦礫



ワールドトレードセンターがあった場所



今月の報告は以上になります。来月の報告書では、引き続き、冬休みの旅行について、加えて、春学期の授業についても報告していきたいと思います。



メキシコの方と、タイムズスクエアにて